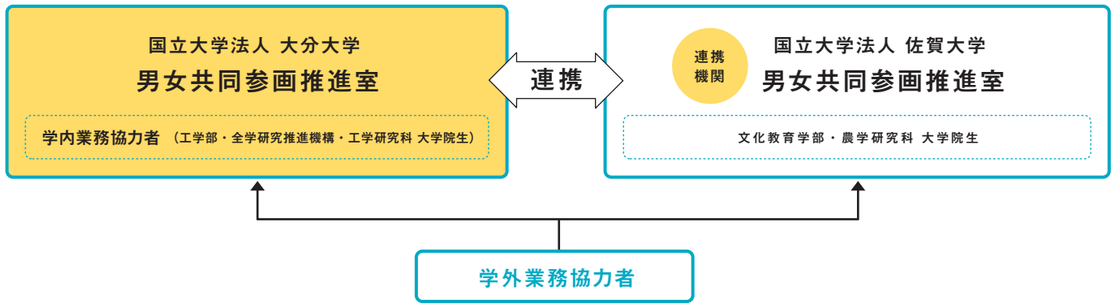
事業実施者・協力者一覧



事業実施責任者

北野　正剛　大分大学長

事業実施担当者

（主担当）
松浦　恵子　大分大学副学長（広報・男女共同参画推進担当）、
男女共同参画推進室　室長、医学部生物学講座　教授

（副担当）
石川　雄一　大分大学学長特別補佐（COC+推進担当）、
工学部応用化学科　教授、男女共同参画キャリア部門委員

事業協力者

城戸　照子　大分大学経済学部地域システム学科　教授、男女共同参画キャリア部門長
大下　晴美　大分大学医学部応用言語学講座　准教授、男女共同参画キャリア部門委員
井上　昌美　大分大学産学官連携推進機構　准教授、男女共同参画広報・地域連携部門長
堤　　紀子　大分大学工学部機械・エネルギーシステム工学科　助教、
男女共同参画キャリア部門委員

学内業務協力者

田上　公俊　大分大学工学部機械・エネルギーシステム工学科　教授
戸高　　孝　大分大学工学部電気電子工学科　教授
信岡　かおる　大分大学全学研究推進機構　講師

学外業務協力者

弥富　洋子　サントリーホールディングス株式会社　人事本部ダイバーシティ推進室長
志済　聡子　日本IBM株式会社　執行役員　セキュリティ事業本部長
衛藤　ともみ　国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所
辻丸　祥子　国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所
田邊　麻由子　三井住友建設株式会社土木本部土木設計部

事業事務担当

大分大学男女共同参画推進室
大分大学総務部人事課

連携機関　佐賀大学

事業実施担当者

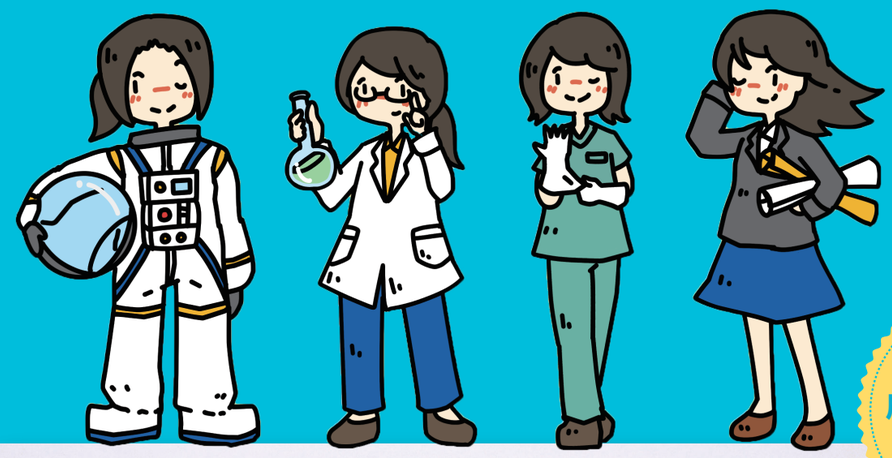
吉住　磨子　佐賀大学男女共同参画推進室　室長
岡島　俊哉　佐賀大学文化教育学部　教授
宮地　歌織　佐賀大学男女共同参画推進室　特任助教

□発行日：平成 28 年 3 月
□編集・発行：国立大学法人 大分大学 男女共同参画推進室
□連絡先：
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原 700 番地　TEL(097)554-8573
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1 丁目 1 番地 TEL(097)586-6347
E-mail fsupport@oita-u.ac.jp

http://www.fab.oita-u.ac.jp

デザイン：株式会社イマジン

リケジョを応援します！



成果報告書
2015

平成 27 年度 JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

母と娘への「ものづくり理系学部」からの招待状

Fabulous Academics at Bundai

国立大学法人
大分大学

大分大学は、教職員・学生が男女等しくその能力を十分に発揮して活躍できる大学をめざしています。

CONTENTS

- 機械工学と電気工学の実験体験会と座談会 …… P.3
- 出前型の男女共同参画入門講義つき理系女性研究者との座談会 …… P.5
- 大学の女性研究者と語ろう …… P.7
- 女性活用を促進しているものづくり企業の女性役職者を講師としたキャリア開発講演会 …… P.9
- 女性土木技術者との座談会 …… P.11
- 再生医療と工学の連携に触れよう …… P.12
- 日本のものづくり、ことづくりに携わる女性との対話 …… P.13
  - 一緒に「招待状」を配ってくれたリケジョの皆さん …… P.14
  - アンケート自由記述・アンケート集計結果 …… P.15
  - 今回の取組のこだわり点！ …… P.17
  - TOPICS …… P.18

MESSAGE

『一年間の招待状を送り終えて』

大分大学には、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を実現するため、「大分大学 男女共同参画推進室」があります。これまでも次世代の女性研究者を応援してきましたが、今回、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）による「平成27年度女子中高生の理系進路選択支援プログラム」事業に応募して採択されました。それが『母と娘への「ものづくり理系学部」からの招待状』です。佐賀大学の男女共同参画推進室とともに、女子高校生・中学生と母親（保護者）の皆様を対象に、理系を選択する意味や魅力を一年間かけて伝えてまいりました。

これからの社会を担う女性にとって、仕事で輝く「かっこいい女性」はどのように進路を選んできたのか、理系選択はどういう意味をもつのか、ものづくりには女性がふさわしいこともあるというのは本当か、といったことを、女性企業人や女性大学院生から伝えてもらいました。また実際に先端技術を体験していただきました。母親（保護者）の皆様の世代とは、働き方やその選択の道、そして世の中の考え方がどのように変わってきたのかをお伝えし、仕事で輝く「かっこいい女性」への道を親子で一緒に考えていただきました。一年間の招待状の数々は、どのように受け止めていただけたでしょうか。

大分大学　男女共同参画推進室
イメージキャラクター　FAB（ふぁぶ）子ちゃん

はじめての事業でしたが、ご参加くださった多くの女子高校生・中学生と保護者の皆様、学校関係者の皆様、ご協力くださった企業で輝く女性の皆様、教育委員会の皆様、佐賀大学の皆様、大分大学 大学院生ほか関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

リケジョそしてすべての女子中高生の皆様の未来が明るく輝くものでありますようお祈りいたします。

大分大学副学長（広報・男女共同参画推進担当）
男女共同参画推進室　室長
松浦（まつうら）　恵子（けいこ）

SCHEDULE

2015年度

2015年 4月
平成27年度 JST
「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」
『母と娘への「ものづくり理系学部」からの招待状』採択!

5月

6月

7月

8月
大学の女性研究者と語ろう
8月7日（金）　大分大学・佐賀大学
8月9日（日）　大分大学
出前講義と理系女性研究者との座談会
8月22日（土）　福岡工業大学附属城東高等学校（福岡県）

9月
出前講義と理系女性研究者との座談会
9月12日（土）・15日（火）　ホルトホール大分（大分市）
9月19日（土）　長崎県立壱岐高等学校（長崎県壱岐市）

10月
女性土木技術者との座談会
10月14日（水）　大分大学
出前講義と理系女性研究者との座談会
10月26日（月）　佐賀大学（佐賀清和高等学校）

11月
大学の女性研究者と語ろう
11月1日（日）　大分大学
11月7日（土）　佐賀大学
出前講義と理系女性研究者との座談会
11月28日（土）　大分大学教育福祉科学部附属中学校

12月
機械工学と電気工学の実験体験会と座談会
12月12日（土）　大分大学

2016年 1月
サントリーホールディングス（株） 弥富洋子氏講演
1月22日（金）　大分大学
再生医療と工学の連携に触れよう
1月23日（土）　佐賀大学
女性土木技術者との座談会
1月27日（水）　佐賀大学

2月
日本のものづくり、ことづくりに携わる女性との対話
2月7日（日）　佐賀大学
日本アイ・ビー・エム（株）　志済聡子氏講演
2月12日（金）　佐賀大学

No. 01

機械工学と電気工学の実験体験会と座談会

実　施　大分大学

合同会場：産学官連携推進機構セミナー室
機械工学会場：工学部 107 号室
電気工学会場：情報基盤センター実習室 B

大分県内の女子高校生と保護者（お母さん）、先生方を対象として、工学部の中でも特に女子学生が少ない機械工学と電気工学の「ものづくり実験」を体験してもらいました。体験会の後には、女子高校生は大学生との座談会、お母さん方には企業が女子の工学研究者を求めていることや女性の働き方が変わってきていることなどについて理解を深めていただく座談会を開催しました。

大分大学
12月12日
（土）

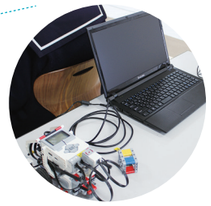
機械工学会場

機械コースでは「教育版レゴ マインドストーム EV3 を使ってロボット制御プログラムを体験しよう。3D プリンターで作成した造形物の展示も行います」と題してロボットの実習と、最新の 3D プリンターの解説およびデモを行いました。

ロボット実習では各自、PC によりプログラムを作成し、実際、動かしました。現在の機械製品がプログラムで動いていることを実感できたと思います。3D プリンターでは、3D-CAD（図面を作成するソフト）から簡単に造形物ができていく様子に、未来の生産ラインを想像できたことと思います。参加していただいた方が今回のイベントを通して「機械」に少しでも興味を持っていただけたらうれしいです。もちろん最終的には女性技術者が増えて、魅力的な機械製品を開発し、女性のちからで日本がより元気になることを期待します。

工学部機械・エネルギーシステム工学科（機械コース）　田上 公俊（たのうえ きみとし）　教授

動かいたー！



電気工学会場

電気電子工学の「ものづくり実験」として「電子ピアノの製作」を体験してもらいました。ブレッドボードと呼ばれる配線用のボードに抵抗やスイッチや LED をつないで回路を組んで、PIC マイコンで動作させました。短い時間しかありませんでしたが、さすがに高校生で皆完成させることができました。本当は抵抗やコンデンサーなどの働きと回路動作を説明して、プログラムを書いて自分の好きな音楽を奏でるとこまでいきたかったのですが、時間の関係上無理でした。自作した回路はさしあげたので、それを使って自分で調べて改良したり、別の回路を試すのも大事かと思います。まずはこの成功体験で電気電子工学に興味を持ってもらえたと思います。

工学部電気電子工学科（電気コース）　戸高 孝（とだか たかし）　教授

楽譜のプログラミングを大学院生が丁寧に説明してくれました。

どんなことをするのか、まずは説明をしっかり聞きます。

座談会

No. 02

出前型の

男女共同参画入門講義つき 理系女性研究者との座談会

実　施　大分大学　佐賀大学　連携

文理コース分けを行う前の時期（前期）に、高校１年生の女子生徒とその保護者（お母さん）、そして進路指導教諭を対象とした男女共同参画入門講義とそれに続く女性研究者を交えた座談会を行いました。この座談会は、大分・佐賀だけでなく、九州で最も人口増加率が高い福岡、そして普及活動の地域格差を軽減する狙いで、九州の離島（壱岐）でも実施しました。また、壱岐と大分では、高校生に加えて、中学生にも広報活動を行いました。

in NAGASAKI

連携（大分大学・佐賀大学）
9月19日（土）

場所：長崎県立壱岐高等学校

母娘で将来について考えて欲しいとの思いで、選択肢の一つであるリケジョについてお話をさせていただきました。まだ将来についてぼんやりと考えている状況の生徒さんにお話しするのは難しいものでしたが、大学生活に関する興味が少しずつ感じられ、彼女らの将来を応援したい気持ちでいっぱいになりました。

大分大学
全学研究推進機構　信岡（のぶおか） かおる　講師

in FUKUOKA

連携（大分大学・佐賀大学）
8月22日（土）

場所：福岡工業大学附属城東高等学校

in SAGA

佐賀大学
10月26日（月）

場所：佐賀大学　本庄キャンパス
教養教育１号館

佐賀市の佐賀清和高等学校の生徒へ佐賀大学農学部准教授の弓削こずえ先生の出前授業を実施しました。弓削先生の高校や大学時代のお話、そして現在の研究は乾燥した土壌でどのように野菜が育つのか、という将来の食料生産につながるお話をしていただききました。アンケートでは、「大学で具体的にどんなことを学ぶのかわかった」「具体的な入試の話について聞くことができた」という声が聞かれました。

in OITA

大分大学
11月28日（土）

場所：大分大学　教育福祉科学部附属中学校

生徒の皆さんが
真剣に聞いてくれて
うれしかったです！

その他にもこんなところで実施しました！

9月12日（土）・15日（火）
ホルトホール大分

座談会では、中・高校生や保護者の皆さんが感じている質問が多く寄せられ、リケジョに対する不安や疑問がまだまだあることを実感しました。しかし、会終了後には、「自分の進路に自信が持てた」「安心した」という声を多くいただき、うれしく思いました。

大分大学　医学部　大下（おおした） 晴美（はるみ）　准教授

No. 03

大学の女性研究者と語ろう

実　施　大分大学　佐賀大学

夏休みのオープンキャンパス時と秋の学園祭時に来場した女子高校生を対象として大学院生、女性研究者による研究紹介と座談会を大分大学、佐賀大学において開催しました。

大分大学

8月7・9日（金・日）

オープンキャンパス同時開催

場所：大分大学（挾間キャンパス）臨床大講義室等
（旦野原キャンパス）図書館ラーニングコモンズA

保護者（お母さん）を対象に現代社会におけるリケジョについてお話させていただきました！

大学のオープンキャンパスと開放イベントの時に、高校生を案内して、女子大学院生の研究報告を聞いてもらいました。

研究テーマを身近な言葉で説明する大学院生にいろいろ質問してくれた皆さんは、大学での勉強や研究に良いイメージを持ち、高校生は特に受験を頑張ろうと思ってくれたようで、案内した甲斐がありました。

大分大学　経済学部　城戸（きど） 照子（てるこ）　教授

こんな研究やってるよ！

理系女性研究者との座談会に参加しました。私が専門としている工学分野は女子中高生およびそのお母さんにとって、身近でない、あまり将来の選択肢に入らないような分野と考えている印象を受けましたが、企業などでは工学分野の女性技術者・研究者が求められていることを伝えました。家庭で少しでも工学に関する話題が出るといいなと思います。

大分大学　工学部機械・エネルギーシステム工学科　堤（つつみ） 紀子（のりこ）　助教

佐賀大学

8月7日（金）

オープンキャンパス同時開催

open campus

場所：佐賀大学

佐賀大学では年に１度のオープンキャンパスの際に、男女共同参画推進室のブースを設け、佐賀大学における理工学部や農学部の理系の女性研究者の活躍を展示パネルにて紹介をし、50名の方がブースを訪れました。ブースでは女子学生相談窓口を設け、各学部の女子学生、大学院生が高校生の進学の相談にのりました。

佐賀大学でも「大学の女性研究者と語ろう」を開催。

佐賀大学

11月7日（土）

学園祭同時開催

場所：佐賀大学

女子高校生、その保護者（お母さん）他15名の参加がありました。男女共同参画推進室よりなぜ大学で男女共同参画なのか、また農学部の大学院生、研究者の方に、高校時代のこと、大学、大学院での研究内容、そして就職活動などについてもお話いただきました。生徒さんからは、「男女共同参画」について学んだ機会が無かったので良かった、という意見などが出ました。

大分大学

11月1日（日）

開放イベント

場所：大分大学

一緒にリケジョをめざしましょう！

研究報告を行った大学院生の皆さんの輝いている姿は、高校生の良いロールモデルになったと思います。このイベントに参加してくださった方が一人でも多くリケジョに仲間入りしてくれることを期待しています。

大分大学　医学部　大下（おおした） 晴美（はるみ）　准教授

No. 04

女性活用を促進しているものづくり企業の

女性役職者を講師としたキャリア開発講演会

実　施　大分大学　佐賀大学

TPP で明らかなように、海外に進出していなくてもグローバルに勝てる経営をする組織でなければ生き残れなくなってきました。男女の性別や年齢に関わらず優秀な人材の活用が、グローバル時代に対処する組織にはボトムラインとして必要です。先見の明がある日本の企業は、こぞってダイバーシティ経営の戦略的活用や組織改革を展開しています。

本講演では、ダイバーシティ活用をトップダウンで展開しているサントリーホールディングス(株)や日本 IBM(株)の先進的な取組について、女性の視点からキャリアを積むこと、ダイバーシティ施策の具体例などを伝えていただき、昔と大きく異なっている新しい「働き方」を感じていただきました。

講師　弥富（いやとみ）　洋子（ようこ）氏

サントリーホールディングス(株)
人事本部ダイバーシティ推進室 室長

大分大学

1月22日（金）

場所：大分大学　旦野原キャンパス
教育福祉科学部 100 号教室

「サントリーグループのダイバーシティ経営 ～性別を超える～」

弥富さんからは「私は働き続けたいと考え理系に進みました。男女それぞれ社会で活かせる特性があり、また、企業によって求めるカラーが全然違います。女性だから、男性だからと言わず、とにかく頑張りましょう。」と、ご自分が理系を選択した経緯も交えてお話いただきました。

佐賀大学

2月12日（金）

場所：佐賀大学　本庄キャンパス
大学会館 2 階多目的ホール

「日本 IBM（アイ・ビー・エム）におけるダイバーシティ推進と女性の活躍を支える組織作り」

講師　志済（しさい）　聡子（さとこ）氏　日本アイ・ビー・エム(株)　執行役員 セキュリティ事業本部長

志済さんは文系出身ながら SE の分野で就職をされ、また女性少ない営業職という分野で活躍され、現在はセキュリティ事業本部長を務められています。営業職が大好きで、均等法以降女性にも色々な仕事の可能性が開けたこともあり、また外資系企業ということで女性であっても働きやすい、また子育てとの両立がしやすい環境だったそうです。もともと営業ということで会社にいるよりも外回りの世界なので、その意味では、女性であっても、子育て中でも成績を残すことは可能で、やりがいがあったとのこと。またアイ・ビー・エム自体が多国籍企業であり、様々な人種、文化背景、宗教の多様性があり、女性も多く管理職として活躍している会社で、日本国内にも海外にもお手本になるようなロールモデルがあったそうです。これまでのご経験を活かし、現在は北海道大学にて「新渡戸カレッジフェロー」という国内外で活躍してきた同窓生（フェロー）として学生に長年の経験や知見、考え方を伝授するプログラムにも関わっていらっしゃいます。常に向上心を持ち、いろんなことにチャレンジしていくその姿勢が大変印象的でした。

No. 05

女性土木技術者との座談会

実　施　大分大学　佐賀大学

九州内で活躍している「女性技術者の会」の土木技術者と女子高校生をもつ保護者（お母さん）や高校の教諭、大学生の座談会を実施しました。男性が多い土木技術界の中で、仕事や家庭との両立、女性土木技術者のロールモデルを呈示しました。

講師　衛藤（えとう） ともみ氏
国土交通省九州地方整備局
大分河川国道事務所

大分大学
10月14日（水）

場所：大分大学
教養教育棟 35 号教室

衛藤さんからは、建設・土木現場の職種は多岐にわたるため、技術や能力があれば、腕力は問われない仕事も沢山あり、本当に重労働なのは一部の職種だけであることや、建設業の現場では、さまざまな立場や職種の人が出入りするため、コミュニケーション能力が高く、段取りや調整に長けている女性が加わることで潤滑油となっていることなど、あまり聞くことのできない建設業界のお話が聞くことができました。

また、「現在女性が活躍できる仕事は広がりつつある。国が女性活用推進に本腰を入れ始めた今だからこそ、女性の側も思い込みや偏見を取り払って、広い視野で自分が活躍できるフィールドを探してみてはいかがでしょうか。「働く」ということは、生活費を得るだけではなく、1日8時間働くということは、人生の 1/3 の時間を費やすこと。ぜひ、人生をかけて何かを残せるものを見つけてください。」と、熱いメッセージをいただきました。

佐賀大学
1月27日（水）

場所：佐賀大学　本庄キャンパス
大学会館 2 階多目的ホール

講師　辻丸（つじまる） 祥子（さちこ）氏　国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所
講師　田邊（たなべ） 麻由子（まゆこ）氏　三井住友建設株式会社土木本部土木設計部

国土交通省では、九 WE 会（九州地方整備局女性技術者の会）があり、少ない女性技術者が情報交換をしたり、子育てと仕事の両立をするための制度づくりなどを進めていること、またなぜ辻丸さんが土木に興味を持ったのかなど幼少のころからのお話をいただきました。また民間企業の田邊さんからは、建設業界で女性技術者を増やすための取組として「けんせつ小町」という連携組織があること、また自分は橋や道路づくりに興味があり、現場監督など男性しかいない職場でも仕事をこなしていることなどのお話がありました。アンケートでは「土木方面は視界に入っておらず、将来の選択肢が広がった」「女性が働きやすい環境が整っていることに驚きました」などの意見があり、なかなか普段実際に話を聞く機会が少ない分野の女性たちからのお話が聞けて大変貴重な機会となりました。

けんせつ小町 KENSETSU-KOMACHI

No. 06

再生医療と工学の連携に触れよう

実　施　佐賀大学

佐賀大学に研究者として来日中のアナ・ベリッシモさん（英国・レスター大学）より、細胞から人工血管を作る再生医療についての説明をわかりやすく行ってもらいました。英国でも理系に進む女子生徒が少ないということで、アナさんは英国でもリケジョの活動をやっているとのことでした。また佐賀大学で微生物の研究を行っている特定研究員の龍田典子さんからは、子育てをしながら研究を続けていくことについてお話をいただき、女性研究者でも好きな研究に打ち込むことを女子中高生にも知ってもらいました。

佐賀大学
1月23日（土）

場所：佐賀大学　本庄キャンパス
理工学部 1 号館　地域デザイン工房室

let's Science!

人工で作った細胞が「ドクドク」と小さく動いている様子を見て、大変おもしろかったです！科学が身近な世界にどのように活用されるのかという一端を知ることができました。理系の世界は日々進化しているので、大人（保護者の方々）にとっても貴重な経験だったかと思います。

佐賀大学　男女共同参画推進室　宮地（みやち） 歌織（かおり）　特任助教

お二人の女性研究者のお話の後は、DNA を抽出するミニ実験を実施。いちごやキウィを使い、家庭にある簡単な物（塩、洗剤）を利用しながら、DNA を取り出しました。生徒さんにとっても一緒の保護者にとっても、とても楽しい実験となりました。また DNA というのが身近にあるということが実感できるイベントとなり、科学そのものが生活に密着していることがわかりました。

No. 07

日本のものづくり、ことづくりに携わる女性との対話

実　施

佐賀大学

第一部では、理系の企業の方々（熊本電気工業、亀屋硝子株式会社、株式会社ミゾタ）より佐賀における「ものづくり」企業として、お仕事のお話、そしてどうしてその仕事を選んだのか、などのお話を各 20 分していただきました。特許の取り方、活用の仕方といったお話や、実際に断熱用のガラスの実験などもあり、生徒さんも初めて見る、聞く話ということで大変興味深く聞いていました。いったん軽食を取ったうえで、また第二部のスタート。第二部では理系も含み様々な企業に参加していただき（環境系 NPO、ラジオ局、行政書士、美容会社、浄化槽の会社）、各テーブルに大人 2 名、生徒 2~3 名という配置で、10 分ほどの時間で互いに自己紹介や仕事のお話などをしました。なかなか普段では出会えない方々とのトークなので、あっという間に 10 分が過ぎました。またその後、他のテーブルに移動し、生徒全員がすべての講師の方とお話し、佐賀における「ものづくり、ことづくり」に関わる方々と交流ができました。

佐賀大学
2月7日
(日)

場所：佐賀大学　本庄キャンパス
教養教育 1 号館 3 階物理地学実験室

女子中学生・高校生にとって文系・理系にとらわれず不得意科目をつくらない学びを目指し、「もの（物）」や「こと（事）」を広く、細かく（深く）見つめてもらえるきっかけにしてもらえればと思い企画しました。「心」の理学（例えば心理学）と「物」の理学（例えば物理学）の間に、人が人生を生き抜く（判断・選択し行動する）ための、「生」の理学があると思っています。理系文系それぞれの出身の社会の方が様々に自身の道のりや生き方を語られました。

佐賀大学　文化教育学部　岡島（おかじま） 俊哉（としや）　教授

４時間という長い時間でしたが、参加者の方からは「あっという間でとても有意義でした」というお声や、保護者の方々からは「自分たちも若い時にこんなイベントがあったら良かったな」というご意見もいただきました。イベント終了後は、女子生徒の皆さんが明るく笑顔だったのがとても印象的でした。

一緒に「招待状」を配ってくれた

リケジョの皆さん

大分大学工学部応用化学科
技術補佐員
村上（むらかみ） 詩織（しおり）さん

昨年 11 月 28 日に大分大学附属中学校の女子生徒達と交流させていただきました。中学生では、まだ具体的に理系・文系を決める時期ではありませんが、１～３年生まで多くの生徒達が進路について早くから興味を持っていることに感心しました。それと同時に、進路決定の直前ではなく早い段階から理系についての漠然とした認識や疑問点をクリアにしておくことの重要性を感じました。最近は理系に進む女性も多いという認識はあるものの「どんな職に就けるのか」「勉強についていけるか心配」といった質問もあり、理系に進んだ先の自分をイメージしにくいようです。また、お母さん方からも、自分たちの時代と少し違うのでわが子へどのようにアドバイスをすればよいかわからないという声もありました。私としては、テストの点数がいいからとか、この教科は苦手だからと目の前の結果から進路を何となく決めるのではなく、なりたい自分をイメージした上でそれに必要なスキルとして文理の選択をして欲しいと願っています。今回の取組の中で「理系のイメージが少し広がった」という声もあり、少しでも将来の自分を思い描く良い検討材料になったのではないかなと感じています。

大分大学大学院工学研究科
博士前期課程 福祉環境工学専攻
原（はら） 麻里子（まりこ）さん

壱岐高校では、大学進学や大学生活について重点的にお話させていただきました。文理選択直前とあって、大学進学を見据えて進路をすでに決めている学生、理系に進もうかどうか悩んでいる学生、保護者の方、様々な方が参加されていました。進路に悩んでいる学生に、私の経験をもとに少しでも理系に興味を持っていただけたら、理系を選択していただけたら、という思いでお話ししました。また、高校生の前で話す機会が初めてで上手く話せるか不安でしたが、真剣に聞いていただき、とてもリラックスしてお話しすることができました。座談会の際、「数学が苦手でも理系に進めますか」という質問を学生から多く受けました。私自身、理系の科目が苦手で、進路選択の際に同じように悩み、家族や友人に相談したことを覚えています。この会を通じ、「理系が苦手でも自分のやりたいことが理系の分野にあればぜひ理系に進んでほしい」ということ、「苦手や向いてないと決めつけ夢をあきらめないでほしい」ということを伝えられていれば嬉しいです。

佐賀大学農学研究科
生物資源科学専攻
長尾（ながお） 優希（ゆうき）さん

男女共同参画推進室での取り組みにおいて、長崎県と福岡県の高等学校で女子学生を対象に理系学部の説明を行いました。この活動を通して、まず、高校1、2年生の段階ではほとんどの生徒が自分の進学したい学部を定めることができていないという現状を実感しました。特に、文理選択を行っているにもかかわらず、進学したい学部が決まっていない生徒に関しては、実際にある理系の学部でどのようなことがなされているのかということに対する情報が不足しているように感じました。

実際に大学に通う私たちが、そのような生徒に対し、自分が学んでいる学問や、農学部の研究、並びに、工学部や理学部、医学部の中でも農学部や工学部と共同研究を行っているその内容について紹介することで、高校生の大学に対するイメージを少しでも具体化できたと感じています。

「理系は大変だと聞きます」そういったイメージを持った高校生に対して、どのような面で大変なのか、また、その大変さがあった場合でも、自分のしていることが社会にどのように役に立っているのか、就職などを踏まえた際のメリットなど、高校生がイメージするには少し難しいことかもしれませんが、こうした問題をきちんと高校1、2年生の時間と心の余裕のあるうちに提供してあげることが必要であると考えます。

今回の活動を通して、私自身も理系学生である立場を再認識し、子供たちや進路を決断する高校生が魅力的だと思えるような実績を作り上げたいと思いました。

このような機会を設けてくださった、大分大学の先生方、男女共同参画推進室の皆様本当にありがとうございました。今後の活動の継続は大変意義のあるものだと考えておりますので、是非、続けられてください。また、私は今年度で卒業いたしますが、協力できることがありましたら、いつでも駆けつけますので、是非ともお声かけの程よろしくお願いいたします。

大分大学大学院工学研究科
博士前期課程 応用化学専攻
森川（もりかわ） 邑美（ゆうみ）さん

「高校生の時には、自分は何を考えていただろう」と、思いながら、2015 年 8 月 22 日の福岡工業大学附属城東高等学校での発表に向けた資料を作っていました。現在 23 歳の私。6～7 歳も年下の女子高生ともなると、やっている勉強の内容も、きっと違っているだろう、その中で私に何か伝えられることはあるのだろうかと不安になりながら座談会に臨みました。そこで、ある女の子が、「理系の学部に進みたいけれど、数学がとても苦手なんです」と、相談してきたのです。実は私も、高校生の時、全く数学ができず、それでも化学は好きで理系の学部に進みたいと葛藤した時期がありました。結局、数学が苦手なのは克服できなかったのですが、好きな化学を学ぶためと思えば頑張れたこと、一番やりたかった勉強ができて、今がとても楽しいと感じていることを彼女に伝えました。その時に、彼女が「頑張ってみようかな」と、言ってくれたのが今でも忘れられません。もちろん、私自身も女子高生や、他のリケジョの方々の話を聞くことによって、知らない世界に触れることができます。今後も、参加者全員が何かのきっかけを得られるこの取り組みに参加していければと思います。

アンケート自由記述

全事業で参加者のアンケートを実施しました。（一部を抜粋し掲載しています。）

女子生徒の声

- 油くさい作業かと思っていましたが、CAD やプログラミングなどが多いことが分かって良かった。
- 工学部といってもそれぞれする事が異なっていて、より専門的になるということがわかった。
- 視野が広がって、考え方が変わった。
- 普段はできないことを体験させていただいたり、なかなか見れないものを見させいただいたいて、化学や工学部に対して興味が深まり、より身近に感じる良い機会になりました。ありがとうございました。
- 今までのイメージがかなり変わって「理系に進みたい」と思う気持ちが大きくなった。
- 実際に理系の道を進んでいる人と話すことで、理系のイメージが変わり、興味をもてた。
- 理系はイメージと違い“幅が広い”ことが分かった。
- 理系の教科が苦手だから理系に行かないではなく、自分のやりたいことで選んだほうがいいということが分かった。
- 理系のおもしろさや、意外と身近なものだということがわかって楽しかった。
- 私は今まで理系を選択しても全く大学や将来が見えていなかったけど、選択して後悔しない大学や社会を探すやる気が湧いてきました。
- 学ぶ内容なども知ることができたし、他にもこれからの進路決定の仕方など、自分でわからなかったことが聞けてとてもためになった。色々な学科を調べて前向きに選択していこうと思った。
- 私は今まで文系だと思っていたけど、今回のことで理系にも少し興味を持ちはじめました。ありがとうございました。
- あまり数学や物理が得意じゃないので工学部で大丈夫かと思っていたけど、話を聞いたりアドバイスをもらって少し自信がつきました。建築について話がきけたのでよかったです。
- 一口に理系と言われても、あまり実感がわかなかったのですが、工学系や土木建築系も理系なのだと知れて、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ぼんやりとしかイメージできていなかったが、明確になった。
- どのように決めたとか、新しく変わることへの対応などをおしえてもらえたのでよかった。
- 学生さんがとてもわかりやすく、親切に説明して下さったので良かったです。また参加したいです。
- 学生の方と直接お話しする機会はあまりないのですごくよい体験ができました。
- DNA をとりだす実験が良かった。
- 理系分野でどのような研究がおこなわれているのかよくわかった。
- 普段できない実験ができてよかった。
- 実験がとても面白くて勉強になりました。
- 様々な職業で活躍する女性の話だったので、視野を大いに広げられたと思う。
- 理系といっても、いろいろな職業があるから、よく考えようと思った。
- 女性の方々の意見を聞いたことで自分の進路への不安がなくなった。
- 自分はある一面のほうからしか物事を見ていなかったけれど、親は他方から物事を見て指摘していることが分かったから、もっと話を聞こうと思えた。

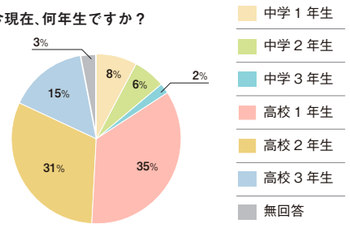
保護者（お母さん）、教諭の声

- 今の世情に合った取り組みでとても熱心で参考になりました。
- 社会的に必要とされる仕事があるということがよりくわしくわかった。
- 実験等に興味がもてた、就職の情報が得られた。
- 夏にも参加させていただきましたが、娘の意欲がとってもあがるので。将来のことを明るい希望（夢）をもって考えることができるように感じます。
- 理系が好きだという漠然とした娘の生活に幅が広がったようにあります。あとは本人のヤル気です。
- 今までイメージだけでとらえていたものが具体的になった。
- 文系の女子の進路にあまり広がりがないというイメージでいたのですが、思っていた以上に理系のほうがより選択肢が多いと、お話で思いました。
- 理系女子の需要の高さをより明確にイメージすることができた。また、そのような企業に就職するために身に付けていくべき力や能力、するべき努力について再認識できた。
- 子ども本人が文理何れに進むか今迷っているが、理系に関心を示した場合、それを親として後押しする術が得られたと思う。後押しに必要な材料（情報）を仕入れることができたと思う。
- 会社のニーズ、男女ともに働きやすく活躍できる職場の生産性の高さについて知れた。
- 社会が女性を必要としている具体例が分かり、生の声が聞けたのでとても良かった。
- 女性技術者が必要とされている事がよく理解できた。
- 理系は決してかたいイメージではなく、広く考えると身近なことにつながることが理解できた。
- 企業が積極的に女性が働きやすいよう進んでいるので、より安心しました。
- 女の子も仕事と家事・育児と両立する時だと思っていましたがさらにその通りだと思いました。
- 結婚後も働き続けられる体勢への取り組みを、確実に知ることができ、安心するとともにうれしく思いました。
- 就職の現状を知り得た。
- 女性の働く環境が、昔よりは整っているが、女性が働きにくい環境はまだ少し残っている。「その社会に自分も1歩踏み出さないといけない!」と思うように今日の講師のお話で感じました。
- 講師の皆さんがイキイキとされていて”自分に自身を持っている”というのが伝わりうらやましい!!
- 最終目標は未定ですが、理系を選択することで目標が見えてくるのでは?と思った。
- 楽しかったです。娘のおかげで参加でき、いい機会を得ました。

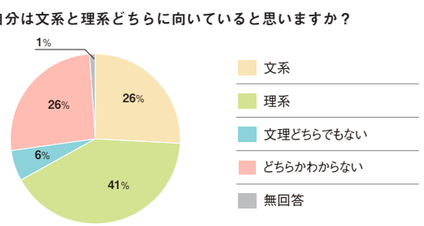
アンケート集計結果

生徒の回答

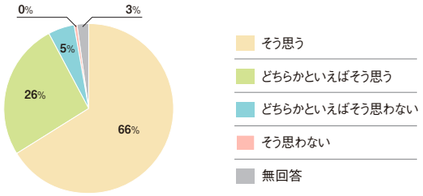
Q1 今現在、何年生ですか？



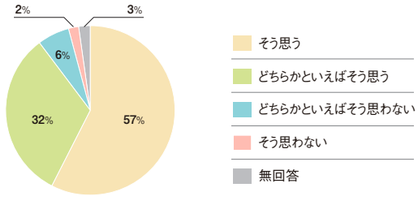
Q2 自分は文系と理系どちらに向いていると思いますか？



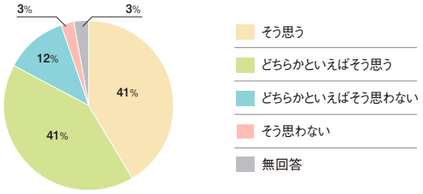
Q3 今回参加した取組の内容は面白かったですか？



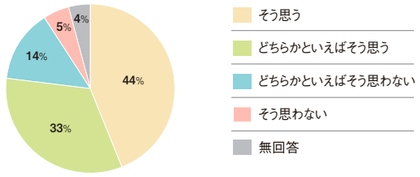
Q4 今回の取組は進路選択の参考になりましたか？



Q5 科学技術や理科・数学に対する興味・関心が高まりましたか？

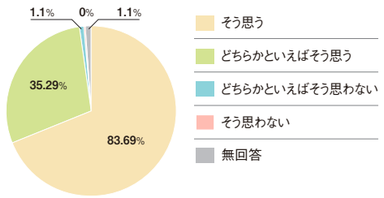


Q6 今後理系の進路を前向きに選択しようと思いますか？

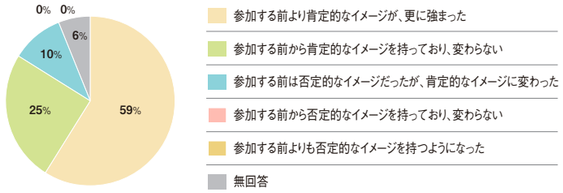


保護者（お母さん）・教員の回答

Q1 取組の内容は面白かったですか？



Q2 今回の取組に参加したことで、女性が理系の職業に就くことに対するイメージに変化はありましたか？



Q3 女子中高生の理系への進路選択を支援する上で、充実が望まれるとお考えの情報はありますか？（複数回答あり）